

8月の安全衛生歳時記

2024年8月の安全衛生防災カレンダー

1日～8日

5月1日～9月30日 ◎STOP!熱中症 クールワークキャンペーン (厚生労働省)

6月1日～8月31日 ◎農薬危害防止運動 (農林水産省)

6月1日～9月31日 ◎夏の省エネキャンペーン (経済産業省)

7月1日～8月31日 ◎青い羽根募金強調運動期間 (日本水難救済会)

7月21日～8月20日◎自然に親しむ運動 (環境省)

8月1日～31日 ◎電気使用安全月間 (経済産業省) ◎食品衛生月間 (厚生労働省)

8月1日～9月10日 ◎墜落・転落災害撲滅キャンペーン (建設業労働災害防止教会)

1日(木) ○機械週間 (～7日、日本機械学会)

・夏の省エネ総点検の日 (経済産業省)

・水の日「限りある水資源を大切に」、(国土交通省)

・肺の日 (日本呼吸器学会)

★北アルプス西穂高岳で高校生のパーティーに落雷、11人死亡 1967 (昭和42)

★化学工場で火薬庫の無煙火薬が爆発、住民61人重軽傷 愛知・武豊 2000 (平成12)

★携帯電話部品工場で爆発事故 マグネシウム合金微粉による爆発、10人重軽傷 宮城・大衡村 2001 (平成13)

2日(金) ★火薬工場で火薬庫が爆発、21人死亡、19人負傷 神奈川・横浜 1955 (昭和30)

★北海道・青森・秋田で局地的雷雨により水害、30人死亡 1960 (昭和35)

★造船所で建造中のタンカーの船首部を溶接作業中に爆発、5人重軽傷 長崎・長崎 2014 (平成26)

3日(土) ★長野県松代町付近で地震発生、以後6年にわたる群発地震の始まり 1965 (昭和40)

★化学工場で洗浄用油の過熱沸騰によりタンク爆発、8人負傷 千葉・千葉 1982 (昭和57)

4日(日) ・橋の日 (語呂合わせ)

★自動車解体工場で火災、3人死亡 鉄骨3階建て250mを全焼 京都・山科 1997 (平成9)

★消火訓練でオイルパンに注ぎ足したエタノールが飛散、消防団員と女兒2人重傷 滋賀・東近江 2013 (平成25)

5日(月) ★東北地方に前線に伴う豪雨、いわき山麓で砂防ダム決壊による土石流など、35人死亡 1975 (昭和50)

★下水道工事中、急な増水でマンホール内の5人が流されて死亡 東京・豊島 2008 (平成20)

★ガスプラント建設現場でガス管をバーナーで乾燥中プロパンガスに引火爆発、4人重傷 横浜・磯子 2010 (平成22)

★工場解体工事現場で、足場上で天井を解体中感電して死亡 京都・右京区 2017 (平成29)

6日(火) ・広島原爆の日 1945 (昭和20)年のこの日、広島に原爆が投下され、同年末までに約14万人が死亡

・太陽熱発電の日 1981 (昭和56)年、香川県仁尾町で世界初の太陽熱発電に成功

★鹿児島で集中豪雨、死者不明49人、家屋の損壊・浸水14,000棟超 1993 (平成5)

★新交通システム建設現場で作業用ゴンドラが暴走、2人死亡、7人重軽傷 広島・安芸 1997 (平成9)

★谷川岳の沢で鉄砲水 サッカー少年団31人が集中豪雨による鉄砲水に襲われ、引率の1人が死亡、6人重軽傷 群馬・水上 2000 (平成12)

★建造中の大型貨物船の船体内塗装作業中爆発、2人死亡、4人重軽傷 愛知・知多 2007 (平成19)

★大学校舎の耐震工事現場で1階天井部分が落下して作業員3人が重傷 大阪・吹田 2014 (平成26)

7日(水) ・立秋

・鼻の日 (日本耳鼻咽喉科学会)

・機械の日 (日本機械学会)

★污水处理施設のマンホール内で、硫化水素中毒で2人死亡 水位検知センサーの点検・交換中 大阪・和泉 2006 (平成18)

8日(木) ★新宿駅構内で危険物を積んだ列車が衝突事故 国電1,100本運休 東京・新宿 1967 (昭和42)

★病院増築工事現場でプロパンガス爆発 はつり作業中配管からプロパンガス漏洩、1人死亡、12人負傷 宮城・鳴子 1998 (平成10)

★製紙工場で配管の清掃中2人が倒れて重体 配管内の薬品と塩素系薬剤が反応して有害ガスが発生 青森・八戸 2004 (平成16)

★港の倉庫で火災、硝酸アンモニウムが大爆発 170人以上死亡、39万人住居失うレバン・ベイルト 2020 (令和2)

★豪雨による災害が全国で相次ぐ 8日頃から続く豪雨で、洪水や土砂崩れなど多発、全国で死者・負傷者が多数 2021 (令和3)

★駅直結の商業施設の地下駐車場の改修作業中に一酸化炭素中毒 作業員12人が病院搬送 北海道・札幌 2023 (令和5)

8月の安全衛生歳時記

9日~19日

- 9日(金)・長崎原爆の日 1945(昭和20)年のこの日、長崎に原爆が投下され、同年末までに約7万4千人が死亡
- ★肥料工場で、塩化ビニル重合槽が誤操作により爆発、4人死亡、12人負傷 熊本・水俣 1961(昭和36)
 - ★原子力発電所のタービン建屋内で配管が破れて高温蒸気噴出、5人死亡6人重傷 福井・美浜 2004(平成16)
 - ★秋田県・岩手県を中心に記録的な大雨 死者8人、12人重軽傷、家屋全半壊約120棟 2013(平成25)
- 10日(土)・道の日(国土交通省、1920(大正9)年、日本の近代的な道路整備計画が決まった)
- ・健康ハートの日(日本心臓財団)
 - ・発炎筒の日(日本保安煙筒工業会)
 - ・LPガス消費者保安デー(毎月10日、高圧ガス保安協会)
 - ・沖縄都市モノレール、那覇空港~首里が開業 沖縄で戦後初の鉄道 2003(平成15)
 - ★東名阪自動車道で渋滞の列にトレーラーが突っ込み4台炎上、5人死亡、7人重軽傷 三重・鈴鹿 2002(平成14)
 - ★消防防災ヘリコプターが墜落、搭乗者9人が全員死亡 群馬・中之条 2018(平成30)
 - ★葉タバコの乾燥作業中、農業用運搬車と鉄パイプの間に挟まれ作業男性が死亡 青森・中泊 2022(令和4)
- 11日(日)・山の日
- ・潜水調査船(しんかい6500)が日本海溝で自力航行型の世界最深記録6527mを樹立 1989(平成元)
 - ★中国自動車道で停車中のトラックにバスなど11台多重衝突、2人死亡37人重軽傷 山口・小郡 2003(平成15)
 - ★化学工場で農薬の原料の粉末を乾燥中の乾燥室から出火、3人が重傷の火傷 新潟・新潟 2005(平成17)
 - ★ビル(30階建)建設現場で5階の作業員3人が堅穴の蓋と共にB3階に転落して死亡 東京・千代田 2017(平成29)
- 12日(月)・航空安全の日(茜雲忌) 御巢鷹山事故の遺族らが編集したメッセージ集のタイトルから茜雲忌とも呼ばれる
- ・国際青少年デー(国連)
 - ★造船所で、修理中の鉋石・石油運搬船の船倉で爆発、5人死亡、7人負傷 長崎 1971(昭和46)
 - ★日航機が群馬県御巢鷹山に墜落し520人の犠牲者 1985(昭和60)
 - ★駿河湾を震源とするM6.5の地震 死者1人、負傷319人、家屋損壊・一部破損約8,680棟 2009(平成21)
 - ★座礁した貨物船から油が流出 タイから八戸港に向かうパナマ船籍船が11日朝に座礁、12日に油流出を発見 青森・八戸 2021(令和3)
- 13日(火)・製品安全点検日(毎月第二火曜、経済産業省)
- ★熱帯低気圧の影響で関東地方に大雨、土砂崩れなどで16人死亡 1999(平成11)
 - ★地下高速道建設工事現場で、ワイヤで搬送中の下水管が当たり3人重傷 東京・中野 2005(平成17)
- 14日(水)★浅間山が噴火、登山者など11人死亡 1947(昭和22)
- ★富士山の砂走り登山道で落石、12人死亡、29人重軽傷 1980(昭和55)
 - ★神奈川県の大倉川が集中豪雨で増水、中洲でキャンプ中の13人が流されて死亡 1999(平成11)
 - ★O-157による集団食中毒で8人死亡、食品会社の白菜の漬物が感染源 北海道・札幌 2012(平成24)
- 15日(木)・終戦記念日 ・戦没者を追悼し平和を祈念する日
- ★花火大会の屋台で爆発、3人死亡、59人重軽傷 発電機に注油の携行缶から漏れたガソリンに引火 京都・福知山 2013(平成25)
- 16日(金)★静岡駅前地下街で、ガス漏れで爆発した現場を現場検証中大爆発、14人死亡223人負傷 1980(昭和55)
- ★織物加工場のボイラー用重油貯蔵タンクから重油約35klが流出 京都・大宮町 2000(平成12)
 - ★自動車工場の変電所で、作業員が変圧器の保守点検中に感電、死亡 広島・広島 2022(令和4)
- 17日(土)★沖縄で離島連絡船が荒天で転覆し、夏休み旅行中の生徒教師ら112人死亡 1963(昭和38)
- ★天竜川で川下りの船が転覆、男児を含む5人死亡、5人負傷 静岡・浜松 2011(平成23)
- 18日(日)・二輪・自転車安全日(警視庁、毎月18日)
- ★飛騨川バス転落事故 17日の台風7号により発生した土砂崩れで観光バス2台が川に転落、104人死亡 岐阜・白川 1968(昭和43)
 - ★道路法面工事中、コンクリート壁の型枠を外す作業中土砂崩れ、2人死亡 福島・北塩原村 2003(平成15)
 - ★海上保安庁のヘリコプターがバトロール中送電線に接触し海上に墜落、5人死亡 香川・多度津町沖 2010(平成22)
 - ★大雨による土砂災害で中央道に不法投棄の産業廃棄物を含む土砂が流出、6人重軽傷 岐阜・端浪 2017(平成29)
 - ★ゴミ運搬用のコンベヤーの点検中、技師がコンベヤーに挟まれて死亡 愛知・名古屋 2022(令和4)
- 19日(月)・食育の日(毎月19日、内閣府)
- ★バスがガソリンで放火され6人死亡、19人負傷 東京・新宿駅西口 1980(昭和55)
 - ★ごみ固形燃料発電所で燃料貯蔵サイロが爆発、消火作業中の消防士2人が死亡 三重・多度町 2003(平成15)
 - ★排水路で鉄砲水が発生、川底で耐震調査中の作業員4人が地下水路に流されて死亡 沖縄・那覇 2009(平成21)
 - ★採石工場の屋外で火薬処理中に爆発事故、3人負傷 岩手・八幡平 2022(令和4)

8月の安全衛生歳時記

20日~31日

- 20日(火)・マイカーチェックデー(毎月20日)
・交通信号の日 1931(昭和6)年、東京・銀座に日本初の3色灯の自動信号機が設置された
★石油化学工場でメタノールタンクが爆発して3人死亡、4人負傷 千葉・市原 1970(昭和45)
★広島市で記録的豪雨、土砂崩れや土石流が発生、77人死亡、負傷68人、家屋全半壊約400戸 2014(平成26)
- 21日(水)・献血記念日 1964(昭和39)年、売血制度をやめ輸血用血液は献血によることが閣議決定された
★化学工場の合成樹脂製造設備で反応暴走により爆発、6人死亡、125人負傷 大阪 1982(昭和57)
★道路建設現場で橋脚の基礎杭を建設中に足場が崩れ、8人重軽傷 山口・萩 2008(平成20)
- 22日(木)・処暑 24節気の一つ、暑さが治まる時期
★沖縄からの疎開船「対馬丸」が魚雷を受けて沈没、学童700人を含む1500人が死亡 1944(昭和19)
★百貨店で殺虫消毒薬剤に引火して火災となり7人死亡、114人負傷 東京・豊島 1963(昭和38)
★台湾、遠東航空機が墜落、乗客乗員110人全員死亡 うち日本人は向田邦子さんら18人 1981(昭和56)
★停泊中の土砂運搬船で油圧パイプの油漏れ修理中に爆発、2人死亡 千葉・館山 2015(平成27)
- 23日(金)★化学工場で、配電工事中の作業者が感電して死亡 大阪・此花 2017(平成29)
★自動車メーカー本社の社員食堂で一酸化炭素中毒、食堂スタッフ14人が病院搬送 静岡・浜松 2022(令和4)
- 24日(土)・葉害根絶デー(全国葉害被害者団体連絡協議会)
★油脂工場で米糠油抽出中へキサンが爆発、11人死亡、9人負傷 東京・江戸川 1960(昭和35)
★FRP製塩酸タンク配管工事中、上部を踏み抜いて2人がタンク内に転落して死亡 千葉・船橋 2011(平成23)
★高速道路トンネル工事現場で崩落事故、作業員2人が重傷 神奈川・山北町 2022(令和4)
★大阪港~香港に航行中の船と日本籍の貨物船が衝突、貨物船が転覆 乗員2人行方不明 和歌山・紀伊水道 2023(令和5)
- 25日(日)○道路防災週間(~31日、国土交通省)
・北里柴三郎がベスト菌を発見 1894(明治27)
★台風接近で暖かく湿った空気が前線を刺激して集中豪雨、洪水等で25人死亡 福島・栃木など 1998(平成10)
★乗用車が飲酒運転の乗用車に追突されて海中に転落、3児死亡 飲酒運転社会問題化 福岡・中道大橋 2006(平成18)
★造船工場で大形クレーンが倒壊(ベアリング交換の為ジャッキアップ中)、3人死亡、4人重軽傷 神戸・中央 2007(平成19)
★徳島自動車道で路肩に停車中のマイクロバスにトラックが追突、死者2人、負傷14人 2018(平成29)
★自動車部品製造工場で機械増設のため配電盤のコード増設作業中感電死亡 三重・菟野 2019(平成30)
- 26日(月)・人権宣言記念日 1789年、フランス国民会議が「人権宣言」を採択
・「火山防災の日」1911(明治44)年のこの日、長野・群馬県境の浅間山に日本初の火山観測所が設置されたことに因み、2023(令和5)制定
★台風で座礁の貨物船の燃料回収中燃料タンク内で重油ガスを吸い2人死亡 鹿児島・志布志 2002(平成14)
★造船工場で建造中の貨物船船底部で塗装作業中爆発、2人死亡2人重軽傷 香川・丸亀 2004(平成16)
★県営水道の送水トンネルが崩落、広島県呉、江田島両市で約3週間広域断水 2006(平成18)
★住宅の外壁洗浄中、作業員が足場から転落して死亡 秋田・北秋田 2022(令和4)
- 27日(火)○秋の睡眠健康週間(~9月10日、睡眠健康推進機構)
・日本初の原子炉に火がともる 茨城・東海村 1957(昭和32)
★ソ連サハリン州の大火傷の3歳児を札幌に緊急輸送、皮膚移植に成功 1990(平成2)
★ガラス工場の貯蔵タンクから塩酸が約1200t流出、従業員4人が病院搬送 茨城・神栖 2022(令和4)
- 28日(水)★奥羽地方で豪雨、穀倉地帯で大水害、死者不明138人 1967(昭和42)
- 29日(木)★ガソリン貯蔵所で、清掃作業などをしていたタンクで火災、6人死亡、1人重傷 愛知・名古屋 2003(平成15)
★マンション建設現場でエレベーター設置作業中のゴンドラが落下、2人死亡 東京・港 2008(平成20)
★ゴミ処理施設でベルトコンベヤーに右腕を巻き込まれ、作業者が右腕切断の重傷 沖縄・南城 2022(令和4)
- 30日(金)○防災週間(~9月5日、内閣府ほか)
○建築物防災週間(~9月5日、国土交通省)
★廃油処理施設で爆発、8人死亡、5人負傷 愛知・東予 1975(昭和50)
★スクラップ工場、鉄くず等を切断していた際に爆発・火災発生、1人負傷 神奈川・横須賀 2000(平成12)
★ガソリンスタンド解体現場で、タンクの中和清掃作業中爆発、2人重体 北海道・札幌 2004(平成16)
★洗剤等製造工場で攪拌設備が爆発・火災、6人重軽傷 2019(令和元)
- 31日(土)・二百十日(立春から210日目)
★キティ台風が関東地方に来襲、死者不明160人、東京都内10万戸浸水 1949(昭和24)

※「事故災害事例」は、国内の重大な事故・労災・気象災害等の中から選んでいます。

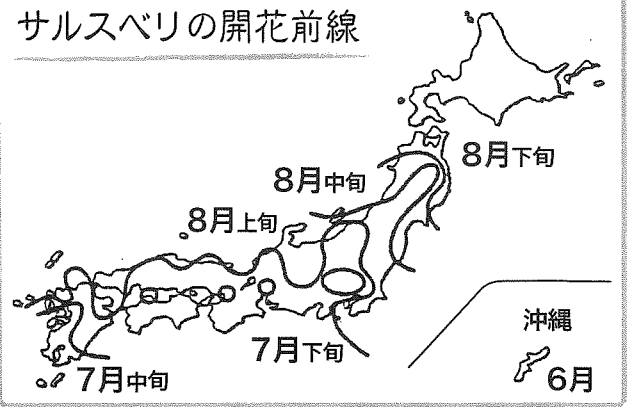
8月の安全衛生歳時記

8月の気象と防災管理

	日の出・日の入		気温 (℃)	湿度 (%)	日照時間 (h)
	日の出	日の入			
北海道(札幌)	4:40	18:37	22.3	75	168.1
青森	4:47	18:35	23.5	78	178.0
岩手(盛岡)	4:47	18:32	23.5	79	145.3
宮城(仙台)	4:51	18:30	24.4	81	144.5
秋田	4:52	18:36	25.0	76	186.9
山形	4:53	18:32	25.0	75	171.8
福島	4:54	18:31	25.5	76	148.7
茨城(水戸)	4:56	18:29	25.6	81	179.4
栃木(宇都宮)	4:58	18:31	26.0	78	140.9
群馬(前橋)	5:01	18:34	26.8	72	167.7
埼玉(熊谷)	5:00	18:31	27.1	74	169.3
千葉(銚子)	4:59	18:29	25.5	87	221.3
東京	5:00	18:31	26.9	74	174.2
神奈川(横浜)	5:01	18:31	27.0	76	206.4
新潟	4:59	18:37	26.5	75	205.2
富山	5:08	18:42	26.9	77	201.4
石川(金沢)	5:11	18:44	27.3	72	215.9
福井	5:13	18:45	27.4	73	205.7
山梨(甲府)	5:05	18:35	27.1	70	197.0
長野	5:05	18:38	25.4	73	201.1
岐阜	5:12	18:42	28.3	69	202.4
静岡	5:06	18:35	27.4	76	201.8
愛知(名古屋)	5:12	18:41	28.2	69	201.3
三重(津)	5:14	18:42	27.9	73	220.7
滋賀(彦根)	5:16	18:45	27.5	73	213.0
京都	5:17	18:45	28.5	66	182.7
大阪	5:19	18:46	29.0	66	222.4
兵庫(神戸)	5:20	18:47	28.6	71	229.6
奈良	5:17	18:45	27.3	73	204.4
和歌山	5:20	18:47	28.4	70	239.9
鳥取	5:22	18:52	27.3	74	203.8
島根(松江)	5:27	18:57	27.1	77	201.0
岡山	5:25	18:52	28.1	69	203.2
広島	5:31	18:58	28.5	69	207.3
山口(下関)	5:35	19:01	27.9	75	207.2
徳島	5:23	18:49	28.1	73	230.6
香川(高松)	5:25	18:51	28.6	70	221.2
愛媛(松山)	5:31	18:56	28.1	70	218.1
高知	5:28	18:52	27.9	76	204.0
福岡	5:41	19:05	28.4	72	200.9
佐賀	5:41	19:05	28.2	73	200.4
長崎	5:44	19:06	28.1	76	207.0
熊本	5:40	19:02	28.4	72	206.0
大分	5:36	18:59	27.7	75	202.8
宮崎	5:39	18:58	27.6	80	208.6
鹿児島	5:43	19:01	28.8	74	206.9
沖縄(那覇)	6:02	19:06	29.0	78	206.3

※日の出・日の入：15日における時刻（国立天文台）
 ※気温：1991～2020年の平均値（理科年表）

サルスベリの開花前線



●8月は、太平洋高気圧に覆われて暑い晴天が続きます。しかし、強い日射により大気の状態が不安定になるため、局地的豪雨が発生しやすくなります。近年、停滞する積乱雲で発生する「線状降水帯」による集中豪雨が多発、全国各地で河川の急な増水や土砂崩れなどの災害が発生し、大きな被害をもたらしています。

●8月には猛暑日も多くなり、熱中症も多発し、大きな被害をもたらしています。

●職場の安全管理では、高温・多湿の環境が続きます。しかし、強い日射により大気の状態が不安定になるため、局地的豪雨が発生しやすくなります。近年、停滞する積乱雲で発生する「線状降水帯」による集中豪雨が多発、全国各地で河川の急な増水や土砂崩れなどの災害が発生し、大きな被害をもたらしています。

●8月には猛暑日も多くなり、熱中症も多発し、大きな被害をもたらしています。

●職場の安全管理では、高温・多湿の環境が続きます。しかし、強い日射により大気の状態が不安定になるため、局地的豪雨が発生しやすくなります。近年、停滞する積乱雲で発生する「線状降水帯」による集中豪雨が多発、全国各地で河川の急な増水や土砂崩れなどの災害が発生し、大きな被害をもたらしています。

●8月には猛暑日も多くなり、熱中症も多発し、大きな被害をもたらしています。

●職場の安全管理では、高温・多湿の環境が続きます。しかし、強い日射により大気の状態が不安定になるため、局地的豪雨が発生しやすくなります。近年、停滞する積乱雲で発生する「線状降水帯」による集中豪雨が多発、全国各地で河川の急な増水や土砂崩れなどの災害が発生し、大きな被害をもたらしています。

●8月には猛暑日も多くなり、熱中症も多発し、大きな被害をもたらしています。

●職場の安全管理では、高温・多湿の環境が続きます。しかし、強い日射により大気の状態が不安定になるため、局地的豪雨が発生しやすくなります。近年、停滞する積乱雲で発生する「線状降水帯」による集中豪雨が多発、全国各地で河川の急な増水や土砂崩れなどの災害が発生し、大きな被害をもたらしています。

●8月には猛暑日も多くなり、熱中症も多発し、大きな被害をもたらしています。

●職場の安全管理では、高温・多湿の環境が続きます。しかし、強い日射により大気の状態が不安定になるため、局地的豪雨が発生しやすくなります。近年、停滞する積乱雲で発生する「線状降水帯」による集中豪雨が多発、全国各地で河川の急な増水や土砂崩れなどの災害が発生し、大きな被害をもたらしています。

8月の安全衛生歳時記

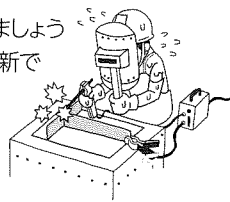
8月1日～31日

電気使用安全月間

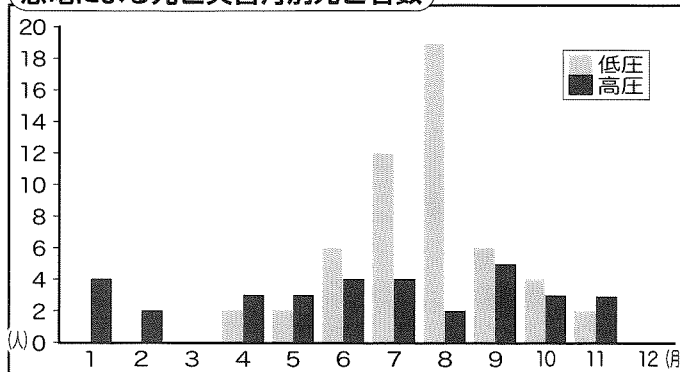
— 夏期に多発！低電圧での感電死亡災害 —

令和6年度 重点活動テーマ

- 感電・火災の防止のため、身近な配線・コンセントを見直しましょう
- 無資格者の電気工事は法令違反です、必ず電気工事士の資格を持った方に依頼しましょう
- 自家用設備は適切な保守点検と計画的な更新で電気事故の未然防止に努めましょう
- 地震、雷、風水害などの自然災害に備え、日頃から電気の安全に努めましょう
- 地震、雷、風水害などの自然災害に備え、日頃から電気の安全に努めましょう



感電による死亡災害月別死亡者数 (平成19年～24年合計)



8月1日から31日までの1カ月間は「電気使用安全月間」です。(主唱：経済産業省)

「電気使用安全月間」は、電気の安全な使い方に関する知識と理解を深め、特に夏期に多発する感電災害や電気事故の防止を目的として、毎年8月に実施されています。

高温・多湿の環境下で電気設備・機器の絶縁不良や劣化、また、風水害や落雷など、電気事故について特段の注意が必要であるからです。

夏季の作業環境下では、

- ・ 軽装により皮膚の露出が多くなること。
- ・ 発汗により皮膚の電気抵抗や、皮膚と充電物との接触抵抗が減少すること。
- ・ 暑さから、絶縁用保護具等の使用を怠りがちなること。

・ 暑さや疲労で、作業時における注意力や危険意識が低下しがちなこと。

…などの要因で感電災害の危険が大きくなり、低電圧による感電死亡災害が多発する傾向にあります。感電死亡災害の6割近くが7月～9月の3カ月間に発生していますが、このうち低電圧による死亡災害は高電圧の3倍以上で、低電圧でも感電死の危険が高いことを示しています。

感電災害を防止するには、感電防止等に関する関係法令(安衛則329～354条)等を守るとともに、電気関係の異常時の報告等のルールを定めて、みだりに電気関係に手を出すことのないよう教育しておくことも重要なことです。

令和6年度重点活動テーマに沿って、感電災害や電気事故を防止しましょう。

8月1日~31日 食品衛生月間

～夏期に多発！細菌性食中毒に注意！～

「食中毒予防の3原則」

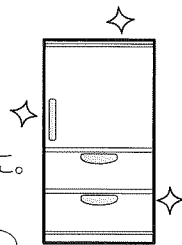
① つけない [=洗う、分ける]

- ・食材を扱う前など、必ず入念に手洗いを。
- ・まな板、包丁はその都度よく洗う。
また、加熱しないものを先に取り扱う。
- ・異なる食材は分けて取り扱う。



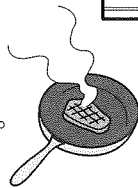
② 増やさない [=低温で保存]

- ・生鮮食品や惣菜などは、早く冷蔵庫・冷凍庫に。
- ・冷蔵庫を過信せず、早めに食べる。



③ やっつける [=加熱処理]

- ・中心部まで75℃以上で1分以上加熱。
- ・調理済み食品も再加熱を。
- ・使った後の調理器具は洗剤でよく洗い、熱湯をかけて殺菌。
台所用殺菌剤の使用も効果的。



8月は「食品衛生月間」です。（主唱・厚生労働省）
「食品衛生月間」は、食品関係事業者及び消費者に対して、食品衛生思想の普及・啓発を図り、特に夏期に多発する食中毒の防止を目的に実施されます。

夏期は、食中毒菌が増殖する絶好の条件が揃っており、腸管出血性大腸菌（O-157など）、カンピロバクター、サルモネラ属菌などの細菌による食中毒が多発するので要注意です。

生肉や加熱不足の肉類は、カンピロバクターや腸管出血性大腸菌などによる食中毒の危険があるので、十分加熱（中心部まで75℃以上で1分以上）することが大切です。

食中毒は外食だけでなく、家庭などでも発生しています。家族の全員には症状がでなかったりすることがあるため、食中毒とは気付かれずに重症化する例もあるので注意が必要です。

おう吐や下痢の症状は、原因物質を排除しようという体の防御反応です。市販の下痢止めなどの薬をむやみに服用しないようにし、早めに医師の診断を受けましょう。

なお、昨年（令和5年）の食中毒発生状況は、発生件数で1021件、一昨年に続く増加となりました。患者数は1万1803人で、3年ぶりに増加に転じています。

食中毒予防の基本は手洗いです。インフルエンザやコロナ感染予防対策の面も合わせてしっかりと手洗いを徹底しながら、上記の「食中毒予防の3原則」を守って、夏期に多発する食中毒を防止しましょう。

8月の安全衛生歳時記

8月30日~9月5日「防災週間」

(9月1日:「防災の日」)

災害の教訓に学び、防災対策の推進を



9月1日の「防災の日」を含む8月30日から9月5日は「防災週間」です。

9月1日は、大正12(1923)年に十万人を超える死者不明者をだした「関東大震災」が発生した日であり、また、昔から台風襲来の特異日とされている「二百十日(今年は8月31日)」にちなんで、東海地方を中心に大きな被害をもたらした伊勢湾台風の翌年の昭和35(60)年に「防災の日」が制定され、防災対策の更なる推進を目的に「防災週間」が昭和58(83)年に制定されました。

我が国は、地形や自然的条件から台風、豪雨、

豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、地滑り、地震、津波、火山噴火等による災害が発生しやすい国土となっています。

近年は、「令和元年九州豪雨」や千葉県などに大きな被害をもたらした「台風15号」、九州地方を中心に甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」、令和3年の熱海市の集中豪雨による土石流災害。また、線状降水帯発生による大雨による甚大な被害が、全国各地で毎年のように発生しています。

また本年1月には「能登半島地震」が発生、半年以上を経過しても生々しい被害が残る状況です。

災害からの被害を軽減するためには、「阪神・淡路大震災」や「東日本大震災」を始めとする大規模地震・津波災害や、これまでに発生した水害、土砂災害、火山災害などの教訓を活かし、防災対策を充実・強化するとともに、災害時に迅速で適切な活動が行えるよう訓練を行うなど、防災行動力を高めておくことが重要です。

「防災の日」を中心に、事業場や地域で防災訓練等さまざまな防災行事が行われますが、積極的に参加して防災知識と防災行動力を高め、職場や家庭の防災対策を推進しましょう。